

受領No. 1609

脱工業化・郊外化にともなうソーシャル・キャピタルと政治行動の研究

代表研究者 福元 真（早稲田大学政治経済学術院 専任講師）



Vanishing Hubs, Shifting Networks: Exploring Local Political Behavior and Social Capital in the Age of Deindustrialization and Suburbanization

Representative Makoto Fukumoto (Assistant Professor, Waseda University, Faculty of Political Science and Economics)

研究概要

日本において地方の脱工業化や中心市街地衰退にどう対応するかは広く議論されるが、こうした経済的变化は組織化された商工業者の縮小を通じて、課題に対処する地元の政治・社会的ネットワークにも変化をもたらすと考えられる。本研究では、(1)産業構造の変化で重厚長大産業が去った都市 (2) E コマースや郊外型モールの発展で中心市街地が衰退した商業都市を対象とし、ショックの前後において政治・社会的データに変化が見られたかを検証する。仮説としては、(a)地域の政治・社会活動が不活発になるかどうか (b)政治・社会面で小規模な団体の新参入につながるか (c)地域の危機が政治・社会的な活動への関心を強めるか、を検証する。特に同様の商工業施設が閉鎖された地域と健在の地域を比較することにより、差分の差分法などの因果推論の技法を用いて分析する。政治面では国政選挙・地方選挙の競争率や投票率、候補者のプロフィールなどを分析し、社会面では集会所の使用やクラブ、PTA の活動などを参照し、定性的研究で補完する。工業・商業施設の地理情報データ化、地方議会選挙のデータ化を進めるとともに、作成された地理情報データを基に抽出した特定地域においてサーベイ及びインタビューを行う予定である。